

まちかど ネットワーク

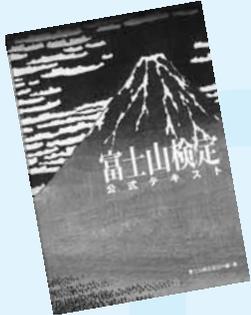
お便りをお待ちしています



このコーナーは、皆さんの意見や地域の問題をお届けしています。あなたの情報を、ぜひ広報広聴課へお寄せください。

☎55-2700 ㊟51-1456

E kouhou@div.city.fuji.shizuoka.jp



小池さんが作成に携わった「富士山検定公式テキスト」

昨年9月に「NPO富士山検定協会」が発足しました。代表理事を務める小池さんは、「富士商工会議所の富士ブランド推進会議で、富士市のイメージアップ戦略の1つにご当地検定の案が出て、実施組織となるNPO法人を設立しました。以前から地元にかかわる仕事をしたいと思っていたので、よいタイミングでした」と話します。

昨年10月、静岡新聞と山梨日日新聞の紙面上で3級検定を実施。全国各地から5526人の応募がありました。北海道や九州からの応募もあり、富士山ファンが全国に大勢いることを実感しました。今後も、多くの人が



「富士山検定」を企画・実施する

小池 義治さん

(青葉町)



に参加してもらえたらうれしいですね。富士山のふもとで毎日暮らしていても、富士山について知らないことがたくさんあります。富士山検定を、富士山について学習するきっかけにしてほしいです」と話します。昨年12月に公式テキストが発売され、2月に2級検定が実施されます。いつも何か新しいことをやりたいと思っているという小池さん。「毎日、思いついた言葉を書きとめています。その言葉から連想する言葉を書き連ね、企画の参考にしています。まるで日記のようですよ」と言葉がたくさん書かれたノートを見せてくれました。「何をやるにも、地元にこだわっています。街がもつと活気づき、自分が生まれた街に誇りが持てるようにしたいです」と笑顔で話してくれました。

NPO富士山検定協会

☎(51)8151

㊟(51)8233



市は「市長への手紙」を設け、市政についてご提言やご意見をいただいています。今回は松本にお住まいの、土屋利枝子さんからのお手紙をご紹介します。

通学路の安全について

富士・鷹岡線の松本交差点から西へ向かう道路は、富士中央の通学路です。歩道はなく、両側が側溝になっています。大型トラックが多く行き交い、子どもが横断スレスレに通っていく車に、いつも冷や冷やしています。

ここ数年アパートなどもふえ、この道路を利用する子ども数も多くなっています。道路を広げてほしいとまでは言いませんが、せめて側溝をふさぎ、グリーンベルトを引いてもらうだけで、だいぶ安全は確保できると思います。事故が起きてからでは遅いと思うので、どうかご検討をお願いいたします。

市長からの回答

「ご意見ありがとうございます。必要の側溝のふたの設置に



土屋 利枝子さん(左上)・早希さん(右・富士中央小3年)・季穂さん(左下・同1年)

については、地元町内会からも要望が出ていますが、側溝が農業用の水路として利用されていることや、他地区などからの要望や緊急性などを考慮した結果、今まで整備ができませんでした。そこで、道幅が狭いことから、道路のセンターラインを消して、両側に外側線やグリーンベルトを引く方法を検討しました。この方法は、道路を狭く見せることになり、車の速度を落とすのに効果的です。これが可能かどうか警察と協議しました。地元町内とも話し合った結果この方法をとることになり、外側線を整備しました。

今後も、市民の皆さんの安全確保のため、できることから行っていくたいと考えています。皆さんのご理解、ご協力をお願いいたします。

問い合わせ 道路維持課

☎(55)2830

㊟(51)0360